

ハラスメント防止通信その5

大学院生のみなさん

副研究科長の吉田圭吾です。

いよいよ修士論文も博士論文も佳境に入っている人もおられるでしょう。納得のいく論文になるように全力を尽くしてください。

ハラスメント防止通信も第五弾になりました。今回は、ハラスメントを、教員と学生・院生とのコミュニケーション障害と捉えてみましょう。

どんな教員も、これからこの院生にハラスメントを働くぞと意識してハラスメント行動を起こす人はいません。どの教員も、院生が良い論文を書けるように、よかれと思って言動を選ぶのです。教員は、そのような言動によって、院生が自らの過ちを正したり、叱咤激励と受け取り、院生の行動が改善されていくことを願うのです。

しかし、そのような教員の思惑とはまったく別に、学生・院生は、教員のそのような言動によって、戸惑い、混乱し、あるいは傷つき、落ち込み、あるいは腹が立ち、はらわたが煮えくり返る思いをすることもあるのです。

それは、言動の送り手と、受け手との間のコミュニケーションがまったく阻害され、送り手の意思や気持ちがまったく受け手に伝わっていないということなのです。そして、ハラスメントとは、受け手が傷つき、苦しみ、心身の苦痛を感じ、場合によっては適応障害に罹患し、心療内科に通うことになるのです。

おそらく送り手の教員の方には、院生が思うように研究しないことへの不満やイライラ、憤りなどが生じており、感情的に暴言や人格否定をしてしまうのでしょう。しかし、その結果学生・院生が心身の苦痛を感じるならば、教員は加害者になるのです。

教員の方も、自分の言動が学生・院生に与える影響を想像しながら指導する必要があります。自分の言動が、院生を苦しめていないだろうか、あるいは指導によって院生の研究活動が改善されていない時には、ひょっとして自らの言動が院生のやる気を削ぎ、逆効果になっていないかどうか、一度立ち止まって考える必要があります。自分の発言が院生にとってハラスメントになっていないか、院生に確かめることも一つの方法でしょう。他の学生や院生に、自分の指導方法を客観的に評価してもらってもいいかもしれません。

いずれにせよ、教員は、指導の効果が見られない時に、院生に原因を見出すばかりではなく、自らの指導に原因がある可能性も検討する必要があります。そして、院生の方も、自分が不快な思いをするとか、先生の指導方法では逆にやる気が削がれると感じたら、勇気を出して教員に気持ちを伝え、指導方法を変

更してもらおうようにしてみましよう。それでコミュニケーションが改善するのなら、その教員の指導を受け続けることができるでしょう。

院生から努力をしてみても、教員の言動が改善せず、むしろ「人のせいばかりにするな」と逆に叱責されるのなら、身近にいる相談しやすい人に相談し始めてみましよう。いずれにせよ、指導教員と指導院生との関係が円滑に進むためにも、お互いの思いやりと配慮が必要であることは肝に銘じておきましよう。

あなたがハラスメントを受けたと感じたら、その行為が不快であること、すぐに止めてもらいたいことを、相手に直接、はっきりと伝えてください。自分の態度をはっきり示すことが大切です。

意思表示をしても効果がないとか、意思表示をしたくても怖くてできないなどと感じる場合は相談窓口にご相談してください。

一人で悩まなくてもいいのです。ハラスメント相談員は文末に付してあります。

もしハラスメント相談員のどの人も知らないので、勇気を出して連絡できないでいる場合は、身近の話しやすい先生にまず話を聞いてもらい、信頼できるハラスメント相談員につないでもらいましよう。

あなたが受けた被害を正確に伝えるためには記録が最も良い方法です。被害を受けた日時、場所、状況について詳細に書き留めてください。誰か目撃者がいたらそれも書き留めておいてください。

ハラスメントにあたるか否かは、他の人の意図ではなく、あなた自身がどう感じたか、あなた自身の判断が大切です。「これはなかったことにする」ということにはしないでください。我慢したり、放置したりしては、ハラスメントはなくならないのです。

ぜひ、ハラスメントのない環境で、充実した研究生活を送っていただきたいと思っています。

人間発達環境学研究科ハラスメント相談員

研究科長 近藤 徳彦 (kondo@kobe-u.ac.jp)

評議員・副研究科長 吉田 圭吾 (kyoshida@kobe-u.ac.jp)

副研究科長 佐藤 春実 (hsato@tiger.kobe-u.ac.jp)

学生委員協議会委員 江原靖人 (ebara@kobe-u.ac.jp)

発達コミュニティ学科准教授 稲原 美苗 (minaeinahara@penguin.kobe-u.ac.jp)

環境共生学科准教授 村山 留美子 (murayama@person.kobe-u.ac.jp)

子ども教育学科准教授 川地 亜弥子 (kawaji@port.kobe-u.ac.jp)

鶴甲第2キャンパス事務課教務学生係長 笹野 哲生

IC&HC センター保健管理部門「心の健康相談部門」カウンセラー

(こちらは IC&HC センター保健管理部門「心の健康相談部門」の予約が必要です。)

受付電話番号 078-803-5245

吉田 圭吾 (kyoshida@kobe-u.ac.jp)

相澤 直樹 (aizawa@kobe-u.ac.jp)

「ハラスメント防止に向けて」パンフレット

<https://www.kobe->

[u.ac.jp/documents/info/project/harassment/20230403harassment.pdf](https://www.kobe-u.ac.jp/documents/info/project/harassment/20230403harassment.pdf)